

日本近代文学会・昭和文学会・社会文学会 合同国際研究集会 分科会スケジュール (2019年11月24日)

個人発表	共立女子大学 3号館								二松学舎大学 1号館								パネル発表	
	会場① 4階401	会場② 4階402	会場③ 4階403	会場④ 3階306	会場⑤ 4階410	会場⑥ 3階315	会場⑦ 3階314	会場⑧ 3階305	会場⑨ 4階402	会場⑩ 6階608	会場⑪ 11階1103	会場⑫ 8階807	会場⑬ 2階201	会場⑭ 2階202	会場⑮ 4階401	会場⑯ 4階403		会場⑰ 5階507
司会(会場担当者)	齊余美(社会)・木村政樹(社会・実行)								副田賢二(近代)・龍地克宜(昭和・実行)								司会(会場担当者)	
10:00~10:40	個人1 ティム・カフニン・ヤング 「夜名垣魯文の『佐賀電信録』—正史、稗史、重記、そして歴史小説」	個人7 ティム・カフニン・ヤング 「『壁文芸』と『大衆文化』の交点—美術評論としての『一九二八年三月十五日』」	個人13 藤春玲 「『遠藤周作『青い小さな葡萄』における移動の表象」	個人19 宮田絵里 「『女』という規範をめぐって—高橋たか子『荒野』論」	パネル① 「井上ひさし—世界との対話」 (成田龍一、遠藤敦子、ロジャー・バリス)	パネル③ 「文学から文学社会学へのシフト—表現・メディア・再話」 (渡辺賢治、森茂、大西永昭)	パネル⑤ 「異言語圏での葛藤：田村俊子の軌跡から見る言語の身体性」 (山崎真紀子、山出裕子、宜野座菜央見、竹松良明)	パネル⑧ 「『フィクション論で問う近世日本文学』」 (高橋幸平、日高佳紀、久保昭博、服部徹也)	個人22 宮澤輝 「『戦線での肉体的負担と銃後の精神構築』—林芙美子『波濤』」	個人28 松田祥平 「一九二六年周辺における大衆文学概念の成立と探偵小説ジャンル—『思ひ出』を中心とする』」	個人34 小田桐ジエイク 「『自己宣伝としての無頼原稿太郎』『猫町』における『美在の形而上学』—ジルド・ドゥルーズの『超越論的経験論』に拠って」	個人40 藤原旅人 「『新原稿太郎』『猫町』における『美在の形而上学』—ジルド・ドゥルーズの『超越論的経験論』に拠って」	パネル⑨ 「『日本文学と動物—ジェンダー・肉食・震災』」 (西原志保、村上克樹、江口真規、佐々木コケナ)	パネル⑭ 「『境界の政治』を問う—キャンノン・アイデンティティ・翻訳—」 (西原志保、村上克樹、江口真規、佐々木コケナ)	パネル⑮ 「『方法としての比較文学』(ブルナール・カーシュ、大川内夏樹、小島洋平、高野岡英里奈、李承俊、長崎海、キヤラ・パヴォーネ)」	パネル⑯ 「『文学における天監制』の現在—2000年代以後の小説から問う—」 (岡英里奈、李承俊、長崎海、キヤラ・パヴォーネ)	パネル⑰ 「『中村古墳資料群を読む—近代日本の(異常心理)文化の再考に向けて』」 (竹内瑞穂、大橋崇俊、安斎順子、橋本明)	10:00~12:00
10:40~11:20	個人2 梁鏡輝 「『幸田露伴』『努力論』の描く『世態人情』について」	個人8 久利若糸 「『小林多喜二』『沼尻村』と革命青年の季節」	個人14 岩本知恵 「『非』/『実在』の影響力—安部公房『幽霊』はここに在る」	個人20 石川真奈美 「『夜の寝覚』の現代受容について—円地文子『やさしき夜の物語』、津島佑子『夜の光に追われて』を中心に」	個人23 唐楚輝 「『日本の架け橋』から『祖国なき者』へ—『二つの祖国』主人公像に関する考察—」	個人29 張元 「一九三〇年代における日中探偵小説の交流—張鷹森『無名飛盗』を中心に」	個人35 王書璿 「『抑圧の重荷』—『中国における密沢賢治』『注文の多い料理店』受容の始まり—田村俊子という読者をめぐって」	個人41 丹母 「『Poetry』研究における日本女性性詩人によるアジア太平洋戦争時がしめ位置と意義—フェミニズムとインベリアリズムの視点から—」	個人24 解放 「『引揚げ文学』における語りと『闇(ダーク)』の問題」	個人30 福馬科 「『80年代中国における日本社会派推理作品』の受容について—『砂』の器と『人間の証明』から」	個人36 山根由美恵 「『舞台』『海辺のカフカ』に見る『歴史』表象—『海辺のカフカ』の器と『人間の証明』から」	個人42 奥地利奈 「『Women's War』Poetry研究における日本女性性詩人によるアジア太平洋戦争時がしめ位置と意義—フェミニズムとインベリアリズムの視点から—」	10:00~12:00					
11:20~12:00	個人3 小橋玲治 「『女性登山家』野口幽齋の紀行文」	個人9 神村和美 「『転向の時代と鶴田浩二—『ペンケル物語』をめぐって—」	個人15 ヤニック・モフワフ 「『内テクスト性』についての考察—島尾敏雄の文学から」	個人21 藤田謙 「『津島佑子』『黄金の夢』の歌における英雄叙の文学から」	個人24 解放 「『引揚げ文学』における語りと『闇(ダーク)』の問題」	個人30 福馬科 「『80年代中国における日本社会派推理作品』の受容について—『砂』の器と『人間の証明』から」	個人36 山根由美恵 「『舞台』『海辺のカフカ』に見る『歴史』表象—『海辺のカフカ』の器と『人間の証明』から」	個人42 奥地利奈 「『Women's War』Poetry研究における日本女性性詩人によるアジア太平洋戦争時がしめ位置と意義—フェミニズムとインベリアリズムの視点から—」	個人24 解放 「『引揚げ文学』における語りと『闇(ダーク)』の問題」	個人30 福馬科 「『80年代中国における日本社会派推理作品』の受容について—『砂』の器と『人間の証明』から」	個人36 山根由美恵 「『舞台』『海辺のカフカ』に見る『歴史』表象—『海辺のカフカ』の器と『人間の証明』から」	個人42 奥地利奈 「『Women's War』Poetry研究における日本女性性詩人によるアジア太平洋戦争時がしめ位置と意義—フェミニズムとインベリアリズムの視点から—」	11:20~12:00					
司会(会場担当者)	関口雄士(昭和)・吉野泰平(昭和)								大井田眞彰(昭和・実行)								司会(会場担当者)	
13:00~13:40	個人4 安藤史帆 「『川上眉山』『書記官』の温泉場—余と『光を育てる人びと』の比較を中心に」	個人10 呉若どう 「『二つの台湾像—豊島浪記』論—一九六九年における(戦後文学)再登場の意義—」	個人16 木下弦 「『阿佐田哲也』『麻雀放浪記』論—一九六九年における(戦後文学)再登場の意義—」	パネル② 「『普遍と土着』を行き来する文学理論の用語—『日本の文学理論』アンソロジー—の英訳作業に見え隠れするもの—」 (ホレカ・イリナ、山本嘉孝、グレッリー・ケズナジャット、大浦康介)	パネル④ 「『様々な五〇年間—花田清輝とその周辺』」 (鈴木規夫、池上善彦、渡部富哉、加藤哲郎)	パネル⑥ 「『プロレタリア文化運動のモダニティ：脚色/共有される文学のサバイバル』」 (松田潤、佐久本佳奈、佐喜真彩)	パネル⑩ 「『道館としての沖縄文学—ポスト新自由主義時代における文学のサバイバル』」 (松田潤、佐久本佳奈、佐喜真彩)	個人25 熊澤真沙歩 「『川端康成』『高城』—『白目夢』から(龍)へ『映発』する(光)の意匠—」	個人31 李杰玲 「『富士山の漢詩及び杜青の『望岳』について』」	個人37 初間晴子 「『大江健三郎作品における『報性』の表象—『万里元年のフットボール』、(核時代の森の愚痴者)の比較分析から」	個人43 ムジブ・カーン 「『近代日本文学における(語り)の伝承—その背景と実践の検討』」 (スローレ・マー、奥村華子、市川シヤ、亀有碧、峰尾俊彦、西岡宇行)	個人44 中村佑衣 「『三島由紀夫』『頼安も』の『怪物』論—被占領期における(占領)への眼差し—」	13:00~15:00					
13:40~14:20	個人5 喜田智尊 「『田山花袋』『蒲団』の一元論—厭世・運命・力」	個人11 中川侑 「『植民地朝鮮に生きた』『対岸の「他者」に向けて』：多和田葉子『虎豹』における(民族・階級・空間)」	個人17 サウト・キアラ 「『対岸の「他者」に向けて』：多和田葉子『虎豹』における(民族・階級・空間)」	個人18 芳賀浩一 「『中野重治と朝鮮語』：『エゴクリティシズム』：冷戦終結後の文化理論と21世紀の日本文学」	個人26 陳逸鳴 「『川端康成』『ゆくひ』における物語空間—世界は喪の喪失と書き合—」	個人32 呂娜 「『永井荷風』と『儒学の仁』」	個人38 山根可葉子 「『大江健三郎』『同時代ゲーム』の女性表象とその問題点—脱構築されない男/女の二項対立—」	個人44 中村佑衣 「『三島由紀夫』『頼安も』の『怪物』論—被占領期における(占領)への眼差し—」	個人26 陳逸鳴 「『川端康成』『ゆくひ』における物語空間—世界は喪の喪失と書き合—」	個人32 呂娜 「『永井荷風』と『儒学の仁』」	個人38 山根可葉子 「『大江健三郎』『同時代ゲーム』の女性表象とその問題点—脱構築されない男/女の二項対立—」	個人44 中村佑衣 「『三島由紀夫』『頼安も』の『怪物』論—被占領期における(占領)への眼差し—」	13:00~15:00					
14:20~15:00	個人6 バク・ヨンソン 「『夏目漱石』『坑夫』論—『坑夫』としてあることの可能性」	個人12 廣瀬陽一 「『中野重治と朝鮮語』：『エゴクリティシズム』：冷戦終結後の文化理論と21世紀の日本文学」	個人18 芳賀浩一 「『中野重治と朝鮮語』：『エゴクリティシズム』：冷戦終結後の文化理論と21世紀の日本文学」	個人27 葉曉瑾 「『滿州体験』と『京都』表象—川端康成『東海道』の射程」	個人33 曹雅潔 「『「歌々時」と『恋情』試論—松本清張の人生観と陽明学の関連から」	個人39 鹿安再 「『林京子の小説における上海日本人租界について—林京子『黄砂』(1977)をめぐって—」	個人45 坂口周 「『現代文学と意志の問題—非形式的な「世界」へ向かって—」	個人27 葉曉瑾 「『滿州体験』と『京都』表象—川端康成『東海道』の射程」	個人33 曹雅潔 「『「歌々時」と『恋情』試論—松本清張の人生観と陽明学の関連から」	個人39 鹿安再 「『林京子の小説における上海日本人租界について—林京子『黄砂』(1977)をめぐって—」	個人45 坂口周 「『現代文学と意志の問題—非形式的な「世界」へ向かって—」	14:20~15:00						